

# 令和3年度 北海道教育大学岩見沢校

## 芸術・スポーツ文化学科 スポーツ文化専攻

### 自己推薦入試 小論文問題

#### 【注意事項】

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いたり裏返したりしないこと。
- 2 この問題冊子は4ページ、解答用紙は1枚、下書き用紙は1枚あります。
- 3 解答は解答用紙に横書きで記入すること。句読点および段落の空白も1文字とし、指定された字数内でまとめること。ただし、題・氏名は記入しないこと。
- 4 受験番号・氏名は、解答用紙の指定欄に記入すること。
- 5 解答用紙1枚を提出し、問題冊子・下書き用紙は、試験終了後持ち帰ること。  
なお、いかなる理由があっても解答用紙以外は受理しません。
- 6 試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落了・乱丁および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

次の文章を読み、下の問に答えなさい。

ユニセフ（国連児童基金）は、世界中のすべての子どもたちが健やかに育ち、持って生まれた可能性を十分に伸ばすことができる世界を目指して活動している国連機関です。約 190 の国と地域で活動しています。（中略）実はユニセフとスポーツとの関わりは深く、スポーツや遊びが子ども達の健康や心身の成長にとって重要な意味を持つことを認識して、長年、世界各地で、様々な場面でスポーツを取り入れた活動を行ってきました。（中略）

1989 年に誕生した「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」は、子どもの最善の利益を考慮すること、子どもの意見を尊重すること、子どもを差別しないこと等を柱とし、世界中のすべての子どもが持つ権利を定めています。そこでは、遊びや（スポーツを含めた）レクリエーションも、すべての子どもの権利として掲げられ、また、子どもはあらゆる種類の暴力から守られることも定められています。（中略）

そのような中、大規模なスポーツの国際大会の開催を控えた日本から、本来スポーツの持っている子どもにとっての素晴らしい価値を発信したいと考えた日本ユニセフ協会は、ユニセフ本部と相談して、2017 年末頃から、新たな文書の作成にとりかかりました。（中略）

スポーツ基本法（2011 年）は、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利」であると謳っています。すべての子どもが安心してスポーツを楽しめる環境を目指す「子どもの権利とスポーツの原則」は、スポーツ基本法と理念を共有するとして、スポーツ庁からは、原則の発表後、都道府県、全国の教育機関やスポーツ団体に、原則の趣旨を通知し、普及啓発に協力するようとの依頼文書が発出されました。2019 年には、日本サッカー協会（中央競技団体として初めて）、全日本野球協会、高野連を含むアマチュア野球 14 団体、日本プロ野球選手会（プロスポーツ選手会として初めて）が新たに賛同するなど、賛同の輪が広がっています。

また、原則発表直後に日本で開催された世界のオリンピック委員会が集まる総会において、日本語版と同時に発表した原則の英語版が、すべての参加者に配布されました。これまでに、ギリシャ語、韓国語、ポルトガル語に訳されるなど、海外にも広まっています。

日本ユニセフ協会広報・アドボカシー推進室（2020）「子どもの権利とスポーツの原則」―誕生の背景と概要―、『その指導、子どものため？おとなのため？ ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」実践のヒント』、明石書店、8-15. を一部改変。

## 問

このような経緯を踏まえ、ユニセフは「子どもの権利とスポーツの原則」を 10 項目にまとめ、次ページに一部紹介したような全部で 30 の評価規準を作成した。これらの規準の中から 1 つを選び、あなたが競技スポーツや野外活動・学校体育の指導者になるとした場合、自分の経験を踏まえた上で「その評価規準に関することで具体的に何を行うか」、また「自分がそのために今後学ぶべきことは何か」について述べなさい。

解答に際しては、解答欄の上段に、「1-1」などの）選択したアセスメントツールの番号と文言を書き、600 字以上 800 字以内（句読点を含む）で書くこと。なお、文章中の「子ども」は「（障害の有無に関わらず）あらゆる形でスポーツに参加する 18 歳未満の者」を、「スポーツ団体」は「スポーツの振興のための事業を行うことを主たる目的とする団体」を、「スポーツ選手」は「競技スポーツや野外活動・学校体育に日常的に取り組んでいる人」を、それぞれ意味するものとする。

**「子どもの権利とスポーツの原則」アセスメントツール（抜粋）**  
**＜スポーツ団体とスポーツに関わる教育機関、スポーツ指導者に期待されること＞**

**原則1 子どもの権利の尊重と推進にコミットする（責任を持ってとりくむ）**

- 規準1-1 子どもが参加するスポーツを実践する際に「子どもの権利」を意識していますか。
- 規準1-2 常に子どもの最善の利益を考慮し、目前の試合の勝利にこだわらない長い目で見た指導を行なっていますか。
- 規準1-3 スポーツとの関わり方、楽しみ方、試合や練習への要望や不快感を含め、子どもが自由に意見を述べることを尊重していますか。
- 規準1-4 子どもがスポーツを通して、フェアプレー、チームワーク、他者の尊重等スポーツの基本的価値を学ぶことに配慮していますか。

**原則2 スポーツを通じた子どものバランスの取れた成長に配慮する**

- 規準2-1 （部活動）スポーツ庁「運動部活動ガイドライン」に従った練習日数・時間を設定していますか？（部活動以外）活動休養日に関するルールを設けていますか。
- 規準2-2 子どもたちとスポーツ選手のキャリア等について話をする機会を設けていますか。

**原則3 子どもをスポーツに関係したリスクから保護する**

- 規準3-1 事故や怪我が発生したときに、原因の検証を行い再発防止に役立てていますか。
- 規準3-2 子どもが適切な指導能力を持つ指導者から指導を受けられるよう努めていますか。

**原則4 子どもの健康を守る**

- 規準4-1 子どもの年齢や成長に応じた運動強度、頻度、指導に配慮していますか。
- 規準4-2 子どもに対して、栄養や食事、医薬品やサプリメントの適切な使用等に関する指導や配慮をしていますか。

**原則5 子どもの権利を守るためのガバナンス体制を整備する**

- 規準5-1 団体関係者が子どもに対する権利侵害を行った場合、公平で透明性の担保された意思決定に基づいた処分等の適切な対応を行っていますか。
- 規準5-2 子どもが、暴力や懸念、身体の不調などに関して相談・報告しやすい仕組みを作り（外部窓口へのアクセスを含む）、子どもに周知していますか。

**原則6 子どもに関わるおとなの理解と対話を促進する**

- 規準6-1 指導者等に対して、子どもの権利の尊重に関する教育・研修の機会を提供していますか。
- 規準6-1 団体内で、子どもの権利尊重、そのための指導方針や指導のあり方等について、保護者や子どもたちが自由に意見を言える機会を設けていますか。

公益財団法人日本ユニセフ協会「子どもの権利とスポーツの原則」起草委員会編（2020）『その指導、子どものため？おとなのため？ ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」実践のヒント』，明石書店，139-141．を一部抜粋し改変。

(このページは白紙)

令和2年11月28日(土)

総合型選抜(自己推薦入試)スポーツ文化専攻 小論文 問題訂正

**【問題訂正の提示方法・内容】**

- ・ 回答開始10分後に試験監督(問題作成者)が誤りに気づき、問題文の「アセスメントツール(抜粋)」にの通し番号が「規準6-1」「規準6-1」と連続している部分について、2つ目の「6-1」は正しくは「6-2」とであると「口頭説明」及び「板書」にて周知した。

**【実際の板書】**

- ・ 「6-1」を縦に2つ書き、下の「6-1」に斜線を引き、右隣に「6-2」と書いた